

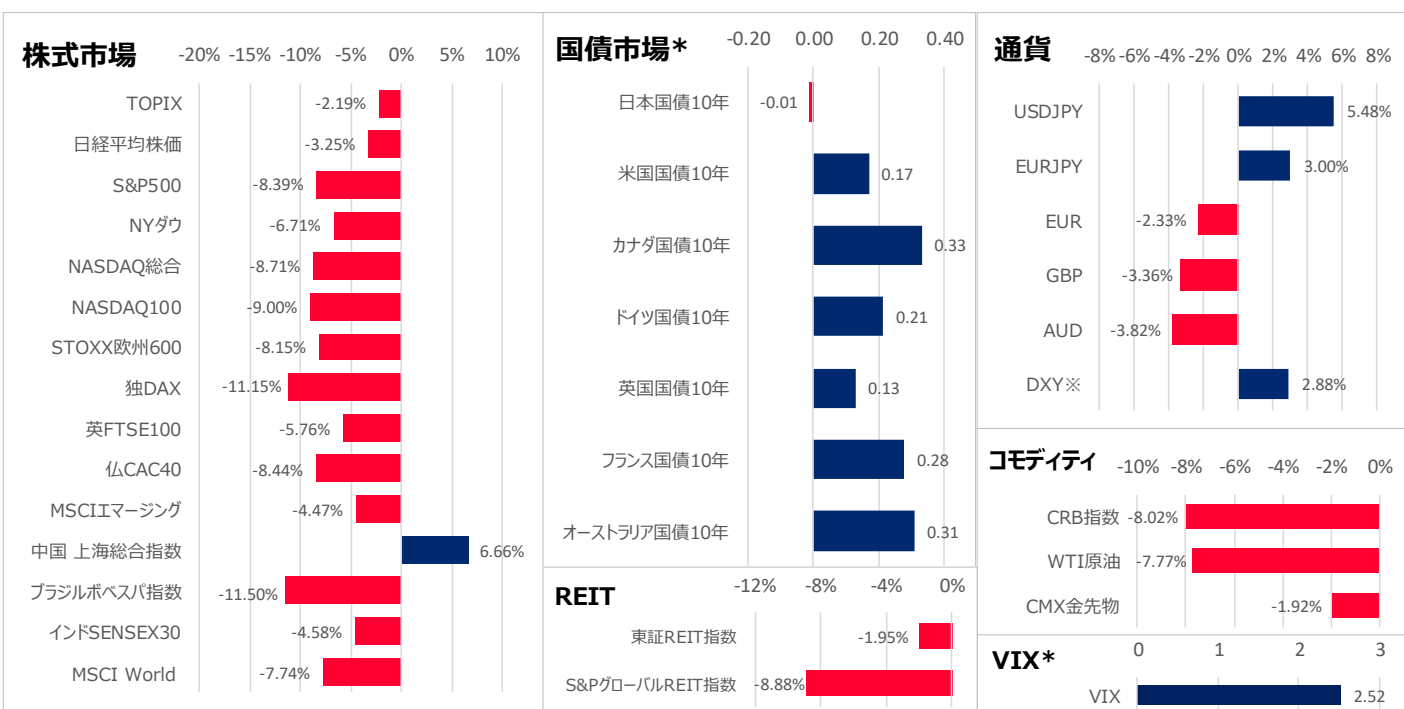
# マンスリーレビュー&アウトルック

2022年7月

## 2022年6月の市場概況

- <株式> グローバル株は下げ幅を拡大。** 金融引き締め加速に伴う景気後退懸念などから、中旬にかけて下値を試す動きとなった。しかし、景気指標の悪化などにより過度なインフレへの警戒感が緩み、月末にかけて値を戻した。主要国では、米国やドイツなどが下げ幅を拡大するいっぽう、金融政策の維持が見込まれる日本は小幅下落に留まった。新興国では、資源価格の下落などからブラジルが大幅安となったが、上海のロックダウン（都市封鎖）解除などを材料に中国は上昇した。
- <債券> 金融引き締め加速が意識されて下落。** 予想を上回るインフレ指標の発表を受けて米国では1994年11月以来となる0.75%の大幅利上げが実施された。また、欧州中央銀行（ECB）も7月利上げの意向が示されるなど、インフレの抑制を目的とした金融引き締め加速が意識されて、月の半ばまでの主要国国債利回りは大幅に上昇（債券価格は下落）した。その後は、景気後退懸念を背景に過度な利上げへの警戒感が和らいだことや株価下落によるリスク回避の動きなどから、下値からは値を戻した。
- <為替> 大幅な追加利上げ観測を背景に米ドルは上昇。** インフレ加速を示す経済指標を受けて米国債利回りが上昇基調をたどる中、米ドルは主要通貨に対して独歩高、ドル円レートは一時98年9月以来となる137円台まで上昇した。米ドル高円安の加速から、ユーロ円レートも一時2015年以來の144円台まで上昇した。
- <商品等> 米国金利の上昇や米ドル高などにより、金は小幅下落。** 原油は、欧州連合（EU）による対ロシア追加経済制裁の決定が買い材料視される場面もあったが、景気後退による需要減少などが意識されて下げ幅を拡大。VIXは、中旬にかけての株式市場の大幅安に連れて30台半ばまで上昇したが、株式市場が下げ止まったことで上げ幅を縮小した。

## 2022年6月（5/31～6/30）のグローバル市場動向



※前月末比騰落率、\*は騰落幅。

※DXYは主要通貨に対する米ドルの強さを示した指数。

※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。

## 株式

## プラス要因



- インフレ指標のピークアウト
- 中国経済正常化の動き

## マイナス要因



- インフレ圧力の継続と利上げに伴う急速な景況感の悪化
- 4-6月期の企業業績悪化

	2022/6/30	過去1か月	3か月	年初来
TOPIX	1,870.82	-2.19%	-3.88%	-6.10%
日経平均株価	26,393.04	-3.25%	-5.13%	-8.33%
S&P500	3,785.38	-8.39%	-16.45%	-20.58%
NYダウ	30,775.43	-6.71%	-11.25%	-15.31%
NASDAQ総合	11,028.74	-8.71%	-22.44%	-29.51%
NASDAQ100	11,503.72	-9.00%	-22.47%	-29.51%
STOXX欧州600	407.20	-8.15%	-10.67%	-16.52%
独DAX	12,783.77	-11.15%	-11.31%	-19.52%
英FTSE100	7,169.28	-5.76%	-4.61%	-2.92%
仏CAC40	5,922.86	-8.44%	-11.07%	-17.20%
MSCI Emerging (現地通貨建て)	147,352.60	-4.47%	-7.95%	-13.53%
中国 上海総合指数	3,398.62	6.66%	4.50%	-6.63%
ブラジルボブス指数	98,541.95	-11.50%	-17.88%	-5.99%
インドSENSEX30	53,018.94	-4.58%	-9.48%	-8.99%
MSCI World (現地通貨建て)	8,882.05	-7.74%	-14.20%	-18.03%

**国内株式：**中国経済の回復期待などから上旬にかけては総じて堅調に推移したが、米国のインフレ指標が市場予想を上回ったことをきっかけに米国株が急落した動きに連れて、中旬にかけて下げ幅を拡大した。但し、金融政策に変更がないとの見方などから、主要国株と比較して日本株の下落幅は限定的であった。日本株の相対的な割安感が下値を支えようが、世界的な金融引き締め動きや世界景気の後退リスクなど外部環境の不透明感から、上値の重い展開を見込む。


**米国株式：**景気後退懸念に加え、米消費者物価指数の発表を受けて利上げの加速が意識されたことなどから、中旬にかけて大幅に下落した。下旬以降、米国景気の減速やコモディティ価格の下落を背景に米連邦準備理事会（FRB）が市場予想ほど積極的に利上げを行わない可能性があるとの見方などから短期的に値を戻したが、企業業績の悪化やインフレへの警戒感根強く、戻り幅は限定的であった。景気後退懸念根強く、インフレへの警戒感が和らぐまでは、値動きの激しい不安定な展開が継続しよう。

**欧州株式：**6月のECB理事会で『7月に政策金利の0.25%引き上げと、インフレが鎮静化しなければ9月に大幅な利上げを行う意向』を示したことなどが嫌気されて、中旬にかけて下げ幅を拡大した。下旬以降、欧州金利の上昇が一服したことを受けて欧州株も下げ止まったが、世界的な景気後退懸念も根強く、小幅な戻りに留まった。ECBの利上げ実施による景気への悪影響が意識されて、上値の重い展開が継続しよう。

**新興国株式：**新型コロナウイルスに対する規制緩和が進んだことなどを材料に中国経済の警戒感が和らいだことなどから、上旬は総じて堅調に推移した。しかし、インフレ指標の発表などをきっかけに欧米株の下げ幅が拡大したことに連れて、その後は軟調に推移した。主要国で進む金融引き締め動きと世界的な景気悪化懸念などから、冴えない展開を想定する。

# 債券

**プラス要因**   インフレ指標の落ち着きと過度な金融引き締め観測の剥落  
 世界的な金融引き締めによる景気減速の動き

**マイナス要因**   世界的なインフレ圧力の継続  
 サプライチェーンの混乱収束等に伴う、世界景気の回復

	2022/6/30	過去1か月	3か月	年初来
(国債利回り)	(利回り %)	(利回り騰落幅)		
日本国債10年	0.23	-0.01	0.01	0.16
米国国債10年	3.01	0.17	0.67	1.50
カナダ国債10年	3.22	0.33	0.82	1.80
ドイツ国債10年	1.34	0.21	0.79	1.51
英国国債10年	2.23	0.13	0.62	1.26
フランス国債10年	1.91	0.28	0.94	1.72
オーストラリア国債10年	3.66	0.31	0.82	1.99
		(トータルリターン…騰落率、スプレッド…騰落幅)		
USD投資適格社債_トータルリターン		-3.37%	-8.53%	-16.30%
USD投資適格社債_対米国債スプレッド	+1.69	+0.29	+0.44	+0.69
USDハイイールド社債_トータルリターン		-6.73%	-9.83%	-14.19%
USDハイイールド社債_対米国債スプレッド	+5.69	+1.63	+2.44	+2.86

**日本国債**：米国等主要国の金融引き締めや長期金利上昇等を受け、日本10年国債利回りは一時、日銀の誘導レンジの上限(0.25%)を上回る場面があった。6月半ばの日銀政策会合では、現状の金融政策が維持され、金利上昇抑制の強い姿勢が改めて示された。月末にかけては欧米の長期金利低下等もあり、日本の10年国債利回りも上昇一服となった。日銀の金利上昇抑制姿勢は当面不変と考えられ、日本国債利回りの上昇余地は限定的になろう。

**米国債**：5月米CPIが市場予想を上回る伸びとなり、6月の利上げ幅が0.75%に拡大するとの観測が米連邦公開市場委員会（FOMC）直前に広がった。実際に0.75%の利上げが実施され、米10年債利回りは一時3.50%に迫り、2011年4月以来の高水準に上昇した。その後、住宅関連等の低調な経済指標や、パウエルFRB議長が景気のソフトランディングは非常に困難と述べたこと等から、利回り上昇幅は縮小した。インフレ懸念と景気減速懸念の綱引きが当面続き、米国債利回りは現状水準のレンジ内推移を想定する。


**欧州債**：6月上旬のECB理事会で、7月の0.25%利上げの意向が示された。9月の大幅利上げの可能性にも言及される等、ECBのインフレ抑制姿勢や米長期金利の上昇等で、欧州債利回りは月半ばにかけて上昇した。その後月末にかけて、利回り上昇幅は縮小した。周縁国国債の対独債利回りスプレッドは一時拡大した後、ECBによる再投資観測等から、縮小に転じた。インフレ状況次第で更なる利上げも見込まれるが、景気減速懸念も残るため、欧州債利回りは現状水準のレンジ内推移を想定する。

**新興国ドル建て国債**：世界的なインフレ懸念は引き続き強く、グローバル市場で金融引き締めが続き長期金利が上昇した。新興国ドル建て国債もその影響から、軟調な展開となった。月末にかけて、欧米の債券市場では景気減速懸念等から買い戻しが優勢となる場面もみられたが、新興国ドル建て国債の上昇幅は限定的となった。世界的なインフレ懸念の継続と、主要国の利上げ継続が見込まれる中、新興国ドル建て国債は軟調な展開を想定する。

# 通貨等

**米ドル**  **プラス要因**

- 米リセッション懸念の後退
- ウクライナ情勢悪化に伴う世界的なリスクオフの動き

**米ドル**  **マイナス要因**

- バイデン政権の支持率低下と政治的混迷
- ロシアや東アジアを巡る米中対立の激化

	2022/6/30	過去1か月	3か月	年初来
USDJPY (米ドル/円)	135.72	5.48%	11.52%	17.94%
EURJPY (ユーロ/円)	142.26	3.00%	5.64%	8.68%
EUR (ユーロ/米ドル)	1.0484	-2.33%	-5.27%	-7.79%
GBP (英ポンド/米ドル)	1.2178	-3.36%	-7.31%	-10.01%
AUD (オーストラリアドル/米ドル)	0.6903	-3.82%	-7.74%	-4.96%
DXY (米ドルインデックス) ※	104.69	2.88%	6.48%	9.42%
CRB指数	291.15	-8.02%	-1.37%	25.29%
WTI原油	105.76	-7.77%	5.46%	40.62%
CMX金先物	1,807.30	-1.92%	-7.28%	-1.16%
VIX*	28.71	+2.52	+8.15	+11.49
東証REIT指数	1,966.90	-1.95%	-1.80%	-4.81%
S&PグローバルREIT指数	178.27	-8.88%	-17.84%	-21.44%

※DXYは主要通貨に対する米ドルの強さを示した指数

\*期間騰落は変化幅

**米ドル**：大幅追加利上げ観測を背景に、米ドルは全面高の展開。景気拡大やインフレ加速を示す経済指標を受け米国債利回りが上昇基調をたどる中、米ドルは主要通貨に対して独歩高、ドル円レートは一時98年9月以来となる137円台まで上昇した。FRBはタカ派色を強めており、日米金融政策の方向性の違いを背景に、ドル円レートは総じて堅調な推移を予想するものの、急激な引締めによる米国の景気後退懸念も高まりつつあることから上値も重くなろう。

**ユーロ**：ECBは6月の理事会で、7月の0.25%の利上げと9月以降の追加利上げを示唆するなど引締めスタンスを強めたものの、米欧金利差拡大を受けてユーロは対ドルで下落基調をたどり、約5年半ぶりとなる1.04を割り込む水準まで売られたが、ドル高円安の加速によってユーロ円レートは一時2015年以來の144円台まで上昇した。インフレ圧力の高止まりと域内経済の減速懸念からユーロは対米ドルで弱含む展開を想定するが、日欧金利差の拡大は、ユーロ円の堅調推移を示唆している。

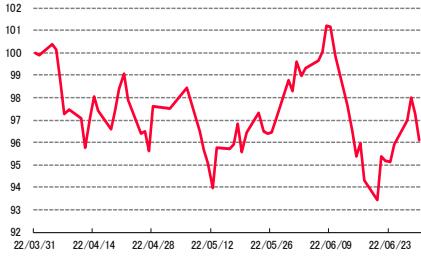
**原油**：EUによる対ロシア追加経済制裁の決定が買い材料視され上昇して始まったものの、FRBによる大幅利上げやロックダウンが解除された上海の一部地域で再封鎖が行われたことなどを嫌気して反落、月末にかけては「OPECプラス」の原油増産ペースの維持決定を背景に買い戻しの動きとなった。ロシア産原油の供給懸念や増産に対するOPECの消極姿勢などが押し上げ材料となる一方、世界経済の減速に伴う原油需要の減退観測が上値を抑えるなど、方向感の無い動きとなることが予想される。

**金**：FOMCを控えて金利上昇への警戒感が高まったことから急落した後、米株式急落を受けたリスク回避の動きから買い戻されるなど、中旬まで方向感の無い動きとなった。その後は、米金利の先高観や米ドル高を背景に下落基調で推移した。主要国の積極的な利上げ姿勢や米ドル高などを背景に上値の重い展開を予想するが、景気の先行き不透明感から一時的に強含みの動きとなることも想定される。

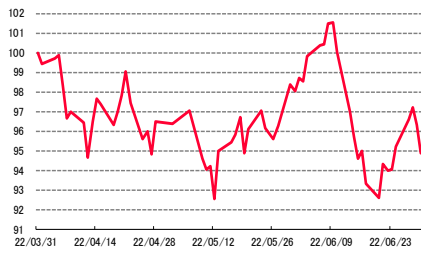
# appendix

# 株式

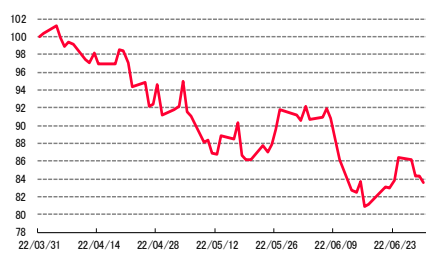
**1. TOPIX** 株式 JPY  
終値: 1,870.82 期間騰落率: -3.88%



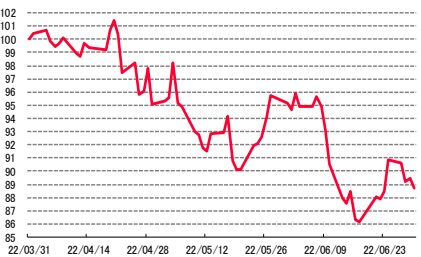
**2. 日経平均株価** 株式 JPY  
終値: 26,393.04 期間騰落率: -5.13%



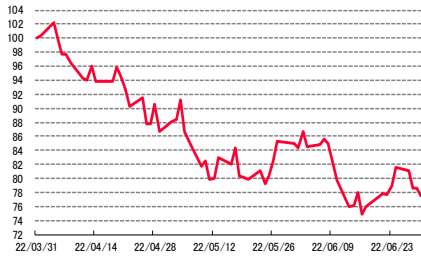
**3. S&P500** 株式 USD  
終値: 3,785.38 期間騰落率: -16.45%



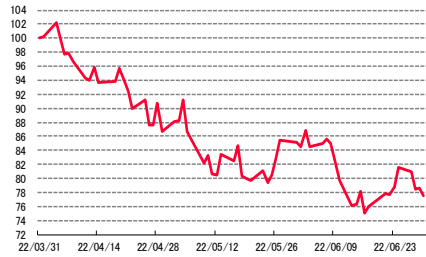
**4. NYダウ** 株式 USD  
終値: 30,775.43 期間騰落率: -11.25%



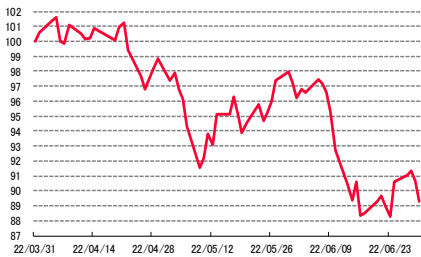
**5. NASDAQ総合** 株式 USD  
終値: 11,028.74 期間騰落率: -22.44%



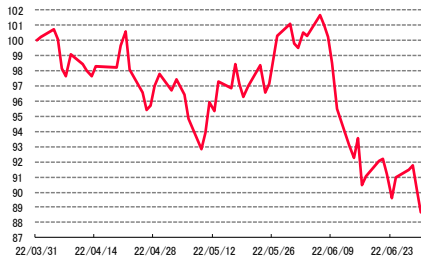
**6. NASDAQ100** 株式 USD  
終値: 11,503.72 期間騰落率: -22.47%



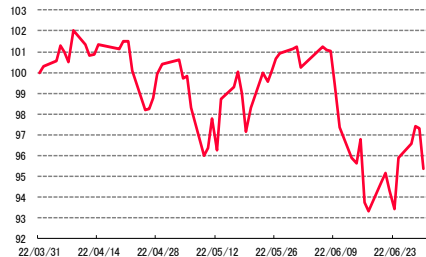
**7. STOXX欧州600** 株式 EUR  
終値: 407.20 期間騰落率: -10.67%



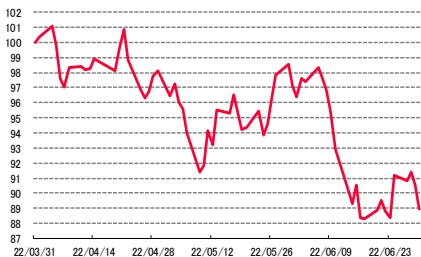
**8. 独DAX** 株式 EUR  
終値: 12,783.77 期間騰落率: -11.31%



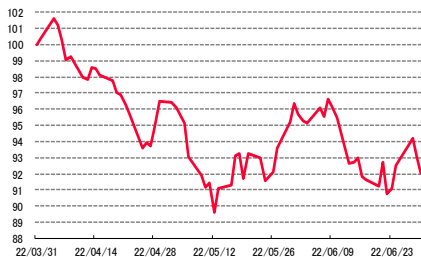
**9. 英FTSE100** 株式 GBP  
終値: 7,169.28 期間騰落率: -4.61%



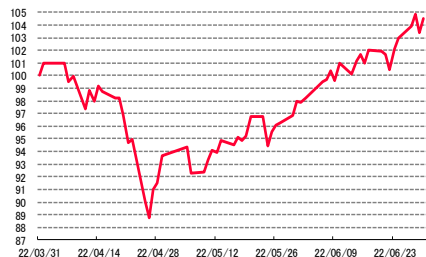
**10. 仏CAC40** 株式 EUR  
終値: 5,922.86 期間騰落率: -11.07%



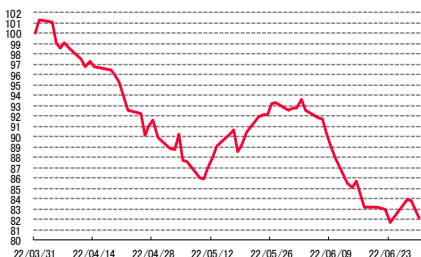
**11. MSCIアジア(現地通貨建て)** 株式 USD  
終値: 147,352.60 期間騰落率: -7.95%



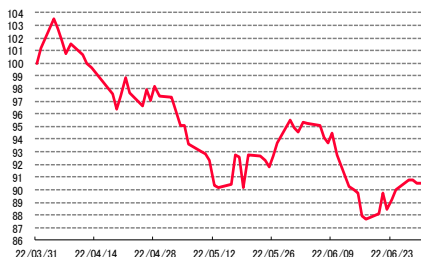
**12. 中国 上海総合指数** 株式 CNY  
終値: 3,398.62 期間騰落率: +4.50%



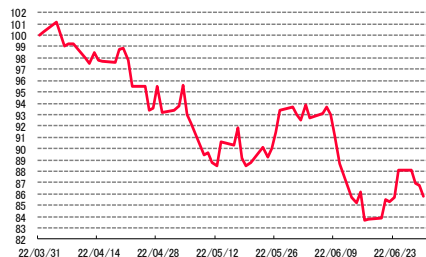
**13. ブラジルボバガ指数** 株式 BRL  
終値: 98,541.95 期間騰落率: -17.88%



**14. インドSENSEX30** 株式 INR  
終値: 53,018.94 期間騰落率: -9.48%



**15. MSCI World (現地通貨建て)** 株式 USD  
終値: 8,882.05 期間騰落率: -14.20%



※ 直近3カ月（2022年4月～2022年6月）の日足チャートです。起点（2022年3月末日）を100として指数化しています（実数値ベース以外）。  
 ※ 各指数につきましては最終ページをご参照ください。  
 ※ ブルームバーグデータをもとに弊社作成。

※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。



# appendix

# 債券

16. 日本国債10年 債券



17. 米国国債10年 債券



18. カナダ国債10年 債券



19. ドイツ国債10年 債券



20. 英国国債10年 債券



21. フランス国債10年 債券



22. オーストラリア国債10年 債券



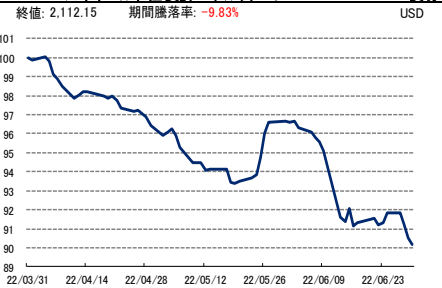
23. USD投資適格社債 トータルリターン 債券



24. USD投資適格社債 対米国債スプレッド 債券



25. USDハイールド社債 トータルリターン 債券



26. USDハイールド社債 対米国債スプレッド 債券



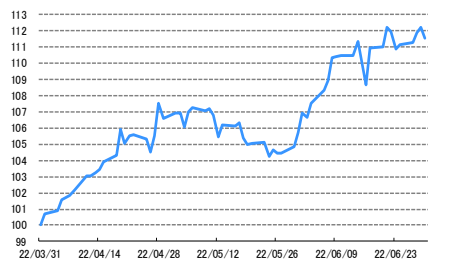
※ 直近3カ月（2022年4月～2022年6月）の日足チャートです。起点(2022年3月末日)を100として指数化しています（実数値ベース以外）。  
 ※ 各指数につきましては最終ページをご参照ください。  
 ※ ブルームバーグデータをもとに弊社作成。

※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。

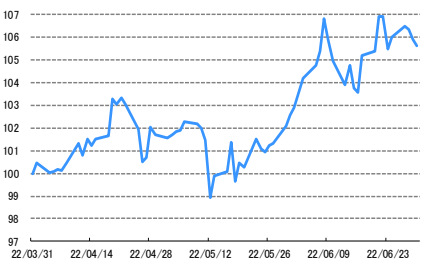
# appendix

# 為替/コモディティ/VIX/REIT

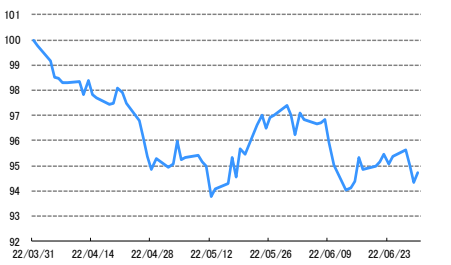
27. USDJPY(米ドル/円) 為替  
終値: 135.72 期間騰落率: +11.52% JPY



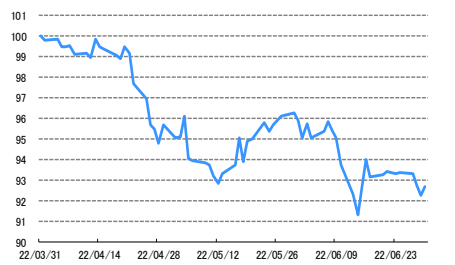
28. EURJPY(ユーロ/円) 為替  
終値: 142.26 期間騰落率: +5.64% JPY



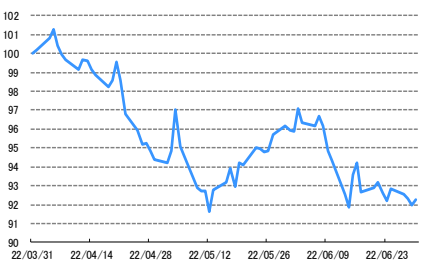
29. EUR(ユーロ/米ドル) 為替  
終値: 1.05 期間騰落率: -5.27% EUR



30. GBP(英ポンド/米ドル) 為替  
終値: 1.22 期間騰落率: -7.31% GBP



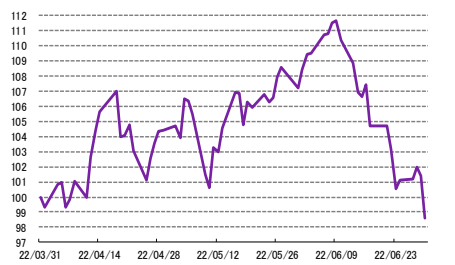
31. AUD(オーストラリアドル/米ドル) 為替  
終値: 0.69 期間騰落率: -7.74% AUD



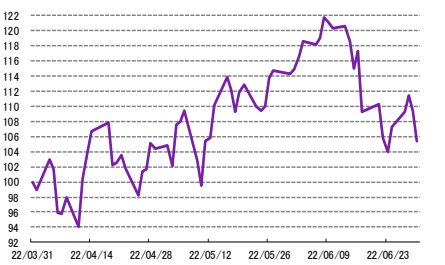
32. DXY(米ドル・インデックス) 為替  
終値: 104.69 期間騰落率: +6.48% USD



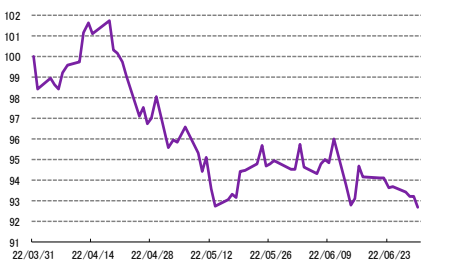
33. CRB指数 コモディティ  
終値: 291.15 期間騰落率: -1.37% USD



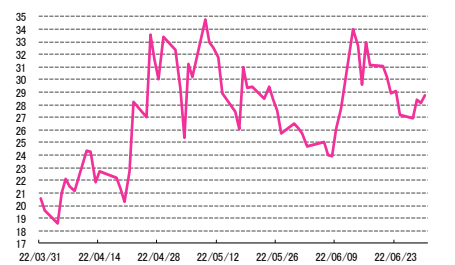
34. WTI原油 コモディティ  
終値: 105.76 期間騰落率: +5.46% USD



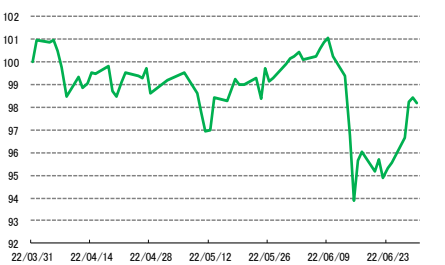
35. CMX金先物 コモディティ  
終値: 1,807.30 期間騰落率: -7.28% USD



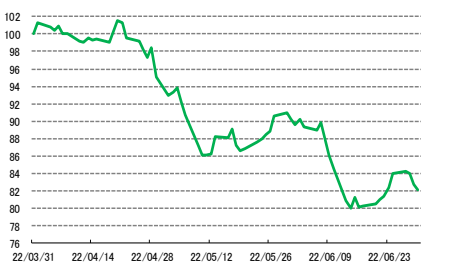
36. VIX (実数値ベース) VIX  
終値: 28.71 期間騰落率: 8.15 USD



37. 東証REIT指数 REIT  
終値: 1,966.90 期間騰落率: -1.90% JPY



38. S&PグローバルREIT指数 REIT  
終値: 178.27 期間騰落率: -17.84% USD



※ 直近3カ月（2022年4月～2022年6月）の日足チャートです。起点(2022年3月末日)を100として指数化しています（実数値ベース以外）。  
 ※ 各指数につきましては最終ページをご参照ください。  
 ※ ブルームバーグデータをもとに弊社作成。  
 ※ 最終ページの「当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について」をご確認ください。

## 当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてPayPayアセットマネジメント株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆しないし保証するものではありません。

使用している指数は以下の通り（すべて現地通貨建て）

【株式】TOPIX：東証株価指数、S&P500：S&P500種株価指数、NYダウ：ダウ工業株30種平均指数、NASDAQ総合：ナスダック総合指数、NASDAQ100：ナスダック 100指数、STOXX欧州600：STOXX Europe 600種株価指数、独DAX：ドイツDAX指数、英FTSE100：イギリスFTSE100指数、仏CAC40：フランスCAC40指数、MSCIエマージング（現地通貨建て）：MSCIエマージング・グロス・トータルリターン・インデックス、中国 上海総合指数：中国 上海総合指数(Shanghai Stock Exchange Composite Index)、ブラジルボベスパ指数：ブラジル ボベスパ指数 (Ibovespa Index)、インド SENSEX30：S&P BSEセンセックス指数（S&P BSE Sensex Index）、MSCI World（現地通貨建て）：MSCIワールド・グロス・トータルリターン・インデックス

【債券】USD投資適格社債\_トータルリターン：Bloomberg Barclays米ドル建て投資適格社債トータルリターン・インデックス、USDハイイールド社債\_トータルリターン：Bloomberg Barclays米国米ドル建てハイイールド社債トータルリターン・インデックス

【コモディティ】CRB指数：TR/CC CRB Excess Return Index、WTI原油：WTI原油先物価格1番限、CMX金先物：COMEX金先物価格1番限、VIX：CBOE S&P500ボラティリティ・インデックス

【REIT】S&PグローバルREIT指数：S&P Global REIT USD Index

出所：ブルームバーグ